

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	現代社会 B	
科目基礎情報						
科目番号	41005	科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	物質工学科	対象学年	1			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	「高等学校新現代社会」谷田部怜生ほか（第一学習社）、標準高等地図（帝国書院）					
担当教員	瀨本 千恵子					
到達目標						
①「最高法規」としての憲法の意義と役割を説明できる。 ②第二次世界大戦後から現在に至るまでの日本、および世界の経済情勢について説明できる。						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限のレベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	第二次世界大戦後、冷戦を経て世界の政治・軍事情勢がどのように変化してきたかを説明できる。	冷戦時の世界情勢、現代社会の地域紛争を指摘できる。	冷戦時の世界情勢を説明できる。	冷戦時の世界情勢を説明できない。		
評価項目2	戦後の日本・および世界の経済情勢がどのように変化してきたかを説明できる。	現代の世界経済がどのような状況にあるか説明できる。	現代日本の経済がどのような問題を抱えているか説明できる。	現代社会における日本の経済問題を説明できない。		
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	第2学期開講 本講義は、高専5年間で学習する社会科諸科目の導入的な役割も担っている。そのため、1つのテーマについて深く掘り下げていくよりも、現代社会の抱える様々な問題について幅広く確認することを目的としている。講義は教科書と配布資料を中心に進めるが、時事問題についてもしばしば言及する。					
授業の進め方・方法	上述の通り、講義は教科書と配布資料を中心に進める。講義に際しては教員が一方的に話をするのではなく、可能な限り学生の発言をうながす。基礎知識を身につけるため、小テストも行う。また、時間は限られているが、いくつかのテーマについては班ごとで議論をし、自分たちなりの解答を導いていく作業を行う。					
注意点	時事問題についても勉強するため、日ごろからニュースや新聞の記事に目を通しておくことよい。また、1つの単元が終わるごとに小テストを行う予定であるので、講義中にしっかり内容を理解しておく必要がある。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス説明 国際政治の動向	シラバスの内容について理解できる。国家の三要素や国際連合の役割について説明できる。		
		2週	国際政治の動向	冷戦期から現代にいたる世界の軍事・政治情勢を大まかに説明できる。		
		3週	国際政治の動向	国際社会におけるこれからの日本の役割について、自己の見解を説明できる。		
		4週	現代の経済	経済とは何かを説明できる。現代社会における経済体制（資本主義と社会主義）の違いを説明できる。		
		5週	現代の経済	市場の仕組みを説明できる。		
		6週	現代の経済	経済における銀行の役割、政府の役割を説明できる。		
		7週	地図帳学習	世界地図を使用する。世界の紛争地域などを地図上で指摘できる。		
		8週	国際経済の動向	貿易・外国為替の仕組みについて説明できる。		
	4thQ	9週	国際経済の動向	第二次大戦後の国際経済の動きを説明できる。		
		10週	日本の今とこれから	日本の中小企業、労働環境、社会保障について現在の状況を説明できる。		
		11週	日本の今とこれから	少子高齢化が進む日本において、これからどのような政策をとるべきか考え、説明できる。		
		12週	世界の今とこれから	国際社会が抱える問題について指摘し、それらの問題に対して日本がどのように関わるべきか考え、説明できる。		
		13週	民主社会に生きる倫理	世界三大宗教と古代の哲学について説明できる。		
		14週	民主社会に生きる倫理	近代・現代の哲学について簡単に説明できる。		
		15週	定期試験	第4学期の内容について試験を行う。		
		16週	定期試験返却・解説	試験を返却し、解説を行う。		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
			公民的分野	第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	
			現代社会の考察	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	
			現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3		

評価割合							
	試験	小テスト	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	5	5	10	0	100
基礎的能力	50	20	5	5	10	0	90
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0